

2011年2月15日

北海道知事 高橋はるみ 様

- ・(社)北海道自然保護協会 会長 佐藤謙
- ・平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男
- ・自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子

厚幌ダムに関する要望書

国土交通省が事業見直しの対象とした厚幌ダムの検証の会が昨年末の12月14日および今年の2月10日に開催され、「コストや工事期間のことから現行のダム建設計画が最善」との結論をだしたと新聞報道されました。そもそも国交省の事業見直しは、「できるだけダムによらない治水」のための検証を目的としているものです。しかし、検証の場の名称は「建設事業地域代表者会議」であり、委員はすべてダム建設推進者のため、初めからダム案以外を検討する余地があったとは思えない委員の構成と運営でした。

私たちは、第1回の検討の場に示された資料を見て、厚幌ダムの必要性について十分な吟味がされたのかどうか大きな疑問を感じました。検討会資料では、国交省があげた項目を検討した結果が掲載されています。その結果ダム以外の方法も可能であることが示されています。しかし、ダム案が優れているという説明資料はありません。したがって、なぜダム案を決定したのかまったくわかりません。本事業の予算は、総額360億円、そのうち北海道負担が160億円という多額の道財政から支出するものなので、納税者の立場から質問をさせていただきます。具体的な質問事項を下記に述べますので、遅くとも2月中にご回答を、事務局を担当している北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel：011-251-5465、FAX：011-211-8465）宛に、文書によってご回答いただけますよう、宜しくお願いいたします。

要望事項

1. 厚幌ダム計画において上流にある厚真ダムについて、治水についても利水についても検討と述べられていて、利水については「厚真ダムの再開発により必要な開発量が確保できる」と述べられています。厚幌ダム計画において厚真ダムの位置づけをお示し下さい。また、なぜ厚真ダムの再開発で対応できないのか、ご回答願います。

説明：国交省の事業点検項目に（2）ダムの有効活用があり、既設ダムの活用があげられていて、治水でも利水でも検討と書かれています。しかし、検討結果が具体的に示されていません。そのような具体性のない中で、なぜ新聞報道のように、ダム案がよいと決めたのか、ご説明ください。とくに厚真ダムは灌漑用水用に建設されたものであるため、灌漑用水のためなぜ厚幌ダムが必要なのかお示し下さい。

2. 過去の洪水被害が示されていますが、このときの最大流量が示されていないので、お示し下さい。また、平成13年の最近10年最大の水害時の氾濫原因が外水か内水なのか、場所を特定してお示し下さい。

説明：多くのダム計画では、基本高水を過大に設定して、ダム建設に誘導することがなされています。厚幌ダム計画で示されている基本高水が過大かどうかを判断するために、実績最大流量を

お示し下さい。また、水害を防ぐには、過去の水害の原因を明らかにしなければなりませんので、外水氾濫か内水氾濫かお示し下さい。

3. 資料では「水田に深水管理のため多量の水を必要とする」と記載されていますが、この深水管理をするためには、従来と比べてどれほど灌漑用水を増やさなければならないのか、またこの深水管理のために厚幌ダムからの利水が必要となったのか、厚真ダムをなぜ利用しないのか、具体的数字を示してご回答ください。